

経営比較分析表（令和5年度決算）

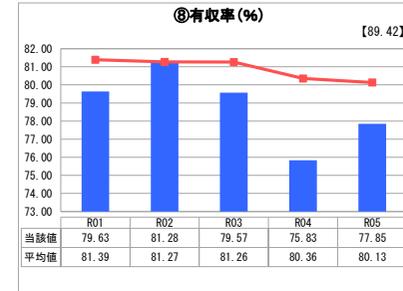
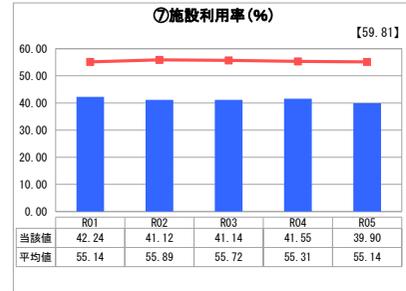
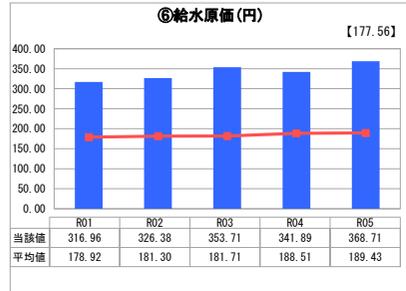
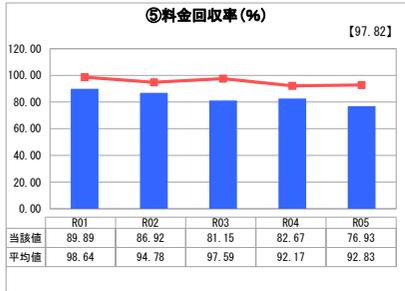
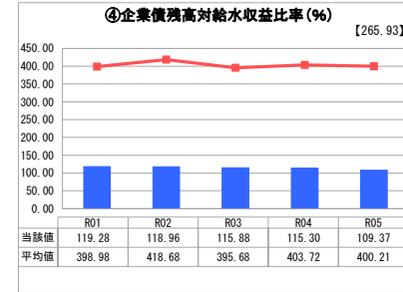
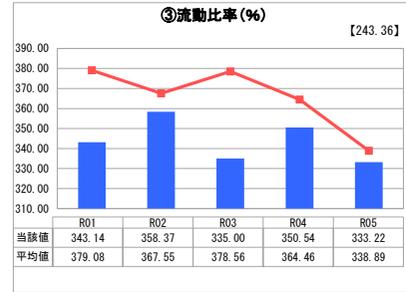
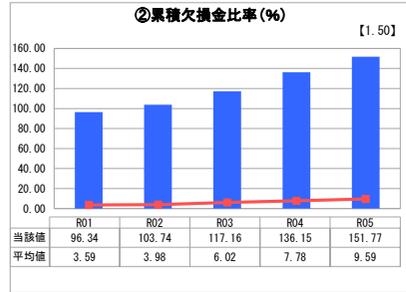
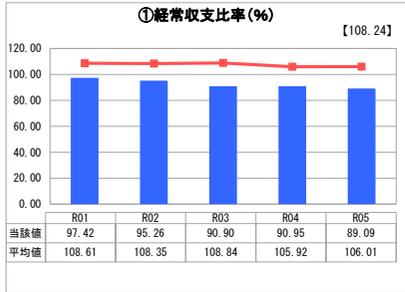
北海道 深川市

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客単料金(円)	
-	79.28	97.33	5.346	

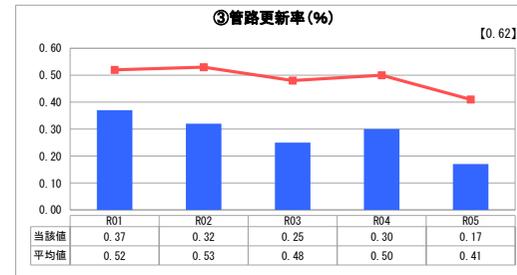
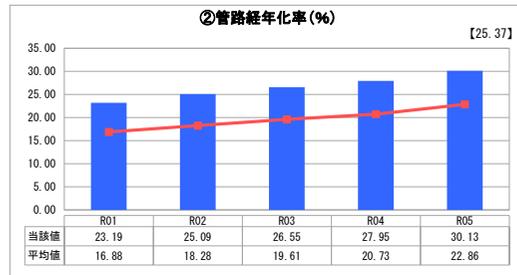
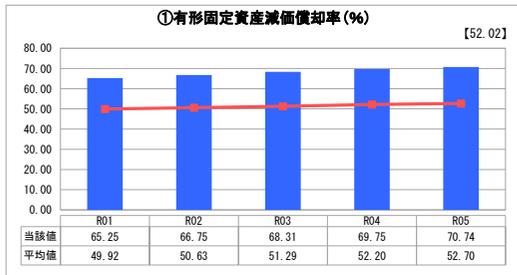
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,764	529.42	35.44
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,953	75.36	238.23

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

維持管理費や支払利息等の費用を、給水収益や一般会計からの繰入金等で賄えていないため、単年度収支の赤字が続いており、累積欠損金が増加しています。
給水に係る費用が大きいため給水原価が高く、供給単価を上回っており、料金回収率が低い状態が続いています。また、当市の給水に係る費用の約4割を受水費が占めており、受水費の増により、給水原価が大きく増加しており、適切な料金収入の確保が必要となっています。

2. 老朽化の状況について

管路延長の更新割合が低く、法定耐用年数を超えた管路延長の割合が大きいため、管路の老朽化が進んでいる状況です。今後も法定耐用年数を超える管路が増える傾向にありますが、その重要度と費用のバランスを検討しつつ順次更新をおこなう予定です。
有形固定資産の減価償却が進み、法定耐用年数に近づく資産が増えていきますが、管路更新も含め、施設等の更新等の必要性を判断します。

全体総括

給水人口の減少に伴い給水収益が減収しているなか、給水に係る費用が増加している状況であり、経営に大きく影響しています。従前から5年毎に料金の見直しを行っておりますが、次の見直しにより、料金改定について検討する必要があります。
今後も北空知広域水道企業団の構成町とも連携を図り、安全で安心な水を供給するため、人口減少及び施設の老朽化や耐震化への対応について検討していきます。
経営戦略により、他会計との経費負担の在り方や業務の効率化・経費の縮減に向けた見直しするとともに、さらなる有収率の向上と収益の増加に努めます。